

ジャパンプラブ

NEWS LETTER

Japan Club : 1759 Sutter Street #203, San Francisco, CA 94115 • www.jpclub.org • jc-sf@sbcglobal.net

12月度理事会報告

2016年1月より会の「事業年度」と「会計年度」が同時に切り替わります

12月5日(土)行われた12月度理事会には7名の理事が参加され、下記の点について討議がなされました。
今回は新しく定期総会(今迄7月に開かれていた)と新年会を同時開催する事になり、12月の理事会はこの議題に絞って細部にわたって打ち合わせました。

- 1) 1月31日に予定されている2016年度総会進行に対する詳細とその後続いて開催される新年会の食材調達、余興等を討議。
今年の特別番組に予定されているシュミット理事による「川柳」指導会、その他特別考案ゲームにご期待を。

1月理事会は1月9日(土曜日)午後1時より予定。
場所はサンフランシスコ日米会会議室。 事務局(大隅敏男)

2016年1月から「事業年度」と「会計年度」が同時に切り替わります

これにより今迄7月に開かれていた「定期総会」が1月に開かれる事になりました、さらに今回は新年会を同時に開催する事になっております。

つきましては出席、参加申し込み用紙や定期総会に出席できない場合の委任状などご提出いただく用紙が沢山ありますのでお間違いのないようご注意ください。

さらに会計事務の煩雑さを避けるため、同封の「ジャパンプラブ会費」(継続会員は年会費35ドル)と「新年会」の参加費(会員は25ドル)の小切手はご面倒でも

必ず別々の小切手としてください。

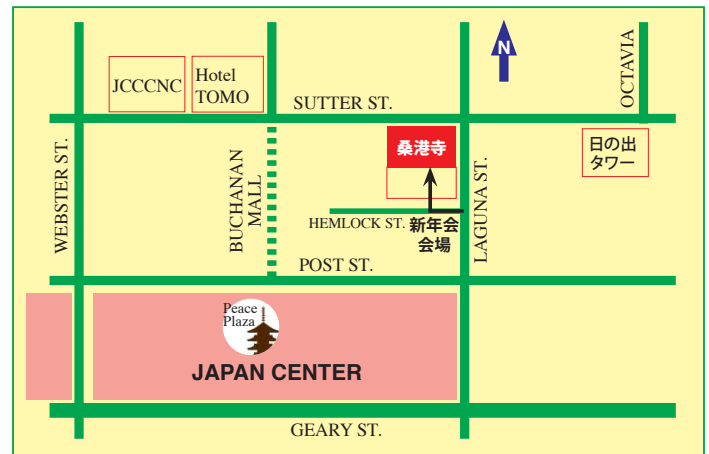


締め切りは1月19日(火曜日)です

今年もいよいよ余す所僅かになりました、ベイエリアは幸い大きな災害に見舞われる事は有りませんでした、パリの事件そしてロスの事件と世の中は大きく揺れています。残念ながら現代に生きる私達は常にこのような事件、事故に巻き込まれる恐れが無いとは云えません、常に新しい情報入手(領事館の注意情報やテレビニュースなどから)してこのような事件に巻き込まれる事の無いに注意しましょう。どうぞ良い新年をお迎えください。

2016年度 定期総会・新年会のご案内

日時: 2016年1月31日(日) 午前11時~午後3時頃
場所: 日本町桑港寺ホール(1691 Laguna St. San Francisco)
会場入り口は建物左側の駐車場部分にあります(案内の掲示が出ています)
新年会費: 会員25ドル、非会員30ドル(食事、飲み物等を含む)
(注)定期総会へのご出席はもちろん無料です
エンターテイメント: 会員が主体となる楽しい企画を考えております
申し込み用紙(定期総会及び新年会)がこのニュースレターに同封されています、締め切りは1月19日(火曜日)です、お急ぎ申し込みください



会場案内: 桑港寺ホール(1691 Laguna St. San Francisco)
もし当日迷った方は (415) 517-1167 迄お電話ください、ご案内します

川柳を作ってみませんか?

10月号の呼びかけに対し、すでに多くの川柳が寄せられているとの事です、貴方も奮ってご応募ください

応募要領と参考になる川柳が10月号、11月号のニュースレターに掲載されていますのでご覧ください。

締め切りは12月末日です。

送り先: シュミットまり子

郵送: 1533 Fieldcrest Dr. Pleasant Hill, CA 94523

電話: 925-228-7170

電子メール: sakura_7170@yahoo.co.jp

ご質問などのお問い合わせも上記アドレスをお願いします。



この欄は会員の皆様に開放されたスペースです。貴方のこだわり、旅の想いで、専門的知識など皆さんに伝えたい事をスタイルにこだわらずお寄せください。文字数はおよそ1,000字程度とし、毎月の締め切りは15日です。

生涯最後のペーパーテスト(筆記試)?

後藤 哲男

この11月の誕生日で5年有効のドライバーライセンスの期限が切れた。10月にDMV事務所で再交付を受けるべくペーパーテストを受けた。

1932年生まれの私にとって、生涯最後の『ペーパーテスト』になるのではないかとと思うと少々感傷的に成らざるを得なかった。車社会の此の国では、ドライバーライセンスが無ければ手足をもぎ取られたも同然、社会と断絶するに等しく考えるだけでも恐ろしい。

最近自分の運転でも右折の際チョクチョク後輪を縁石に擦る事がある。運転感覚に多少陰りが出て来たのを、実感している。高速道路も時間がかかるけれど、専ら右端レーン運転にしている。その上車自体も小型車「HONDA Civic」に買い替えた。

ところで、5年振りのペーパーテストに備え古い問題集を引き出し、今回は正解のみを頭から丸暗記の戦法に徹した。試験場ではコンピューターを取るかペーパーにするかの選択を尋ねられたが、ペーパーを選択した。5年前と同じ問題や、若干語句をトリッキーにしたものや、死んだ犬や猫を路上に投げ捨てると罰金と拘留を課せられるなど初めてお目に掛る出題もあった。

第一回目の挑戦はペケ4問で不合格。最初直感でつけてあった正解を提出直前に訂正した一問が致命傷と成り敢え無く敗退。残念ながら歳には勝てない悔しい思いを実感。でも「直感」も貴重な判断材料と馬鹿にすべきでないと思改めて痛切に感じた。

アメリカに最初に来た時も二回連続ペケであったのだ。ドンマイ、ドンマイ。中一日置いて再度挑戦。3問ペケで辛うじて合格。ヤレヤレ!

でも試験チェック係の女性が何を思ったのか大きなこえで『YOU—U PASSED』と叫んで急に立ち上がりハイタッチ!を求めて来た。久しぶりのハイタッチに陽気なアメリカ人の一面を見た思いで嬉しかった。

今回の生涯最後の筆記試験になるかも知れないと思込んでいた折、機転の利いたハイタッチの祝福に、感謝感激。

我が人生の最初の筆記試験を思い返してみると、それは小学校に進学する前に行き着く。母に手を引かれて行った幼稚園の入園日であった様な気がする。貴男のお名前を書いて下さいと言われて『ゴトウテツヲ』と鯪ほこ張つて書いたのが初めてであったと思う。以後小学校、中学校、高校、大学、会社と社会生活の節目に幾度か筆記試験を経験して来た。今と異なり、尖った鉛筆2/3本とケシゴム携帯での筆記試験であった。毎度書き終えた後に悲喜こもごもの出来事があったけ。

2週間後に新しいDriver License が送付されて来た。横1インチ縦1.5インチの写真を目を見ると、タメ息が出た。もう少し若く撮れていても良からうにと。

でもこのプラスチックカードが之から先、社会の窓を開く守り神になってくれると思うと、常に自戒しながら安全運転に徹し様と思う。もう一度ペーパーテストの幸運に出会うかも知れないから。



この欄は会員の皆様に開放されたスペースです。貴方のこだわり、旅の想いで、専門的知識など皆さんに伝えたい事をスタイルにこだわらずお寄せください。文字数はおよそ1,000字程度とし、毎月の締め切りは15日です。

「トランプ旋風をどう読むか」

日本の友人へのメールから 上野 正安

今、アメリカではトランプの名前をTVや新聞、雑誌で見ない日はありません。共和党候補としての支持率もパリ、カリフォルニアでのISIS関連のテロの後では36%と断トツになって来ました。このまま旋風が続くのかどうかは未だ何ともいえませんが、最近、ニューヨークタイムズ紙がトランプに関する面白い記事を掲載しました。それは過去1週間に彼が集会、演説会、インタビュー、記者会見で喋った言葉 95,000語を分析して何らかの特徴を読み取ろうとしたものです。

第1の特徴は「我々」、「彼等」と言う言葉が実に多く使われ、それが「味方」と「敵」を表わしていることです。トランプは世の中には味方か敵しか居ないと言うロジックを使って全ての論議を非常に分かり易くする戦術を用いています。

第2に今は選挙戦の最中ですから共和党の他の大統領候補に対するコメントが多く聞かれますが、そこで多く使われている言葉は"stupid"(30回)、“horrible”(14回)、“weak”(13回)です。“weak”を少し婉曲的にしたのが、プッシュに対する“low-energy”でした。私がTV討論会で見ているトランプは政策論争になると自説を述べた後は巧みに議論から身を引いて、相手候補を“weak”の一言で片ずけてしまうきらいがあります。

第3は実証されないことを確信を持って言うことです。例えば9.11の際、隣のニュージャージー州では何千人もの人が祝杯を挙げたと言っていますが、具体的に誰が何処でそんなことをしたかは到底実証できないでしょう。これは“trust-me-only-me”の修辞法でデマゴグ(扇動政治家)の特徴でもあります。

以上に挙げた3つの特徴はアメリカの戦後政治に出現した反共主義のマッカーシー上院議員、人種隔離主義者のウオーレス・アラバマ州知事と言う著名なデマゴグにも共通していますが、トランプは彼等と大きく違うところもあります。それはこの2人が決して大衆受けする政治家では無かったのに比べ、トランプは精力的でカリスマ性のある話し手で聴衆を喜ばせ、虜にする力を備えています。更にどんなテーマでも水彩画の様にぼやかし、冗談話に変えてしまう特技を持っています。

選挙戦が始まったばかりの頃は何れ本格的な政策論争に入ったらトランプはボロを出し、支持率も落ちて行くだろうと言われていました。それがそうならないのは彼がこれまでの扇動政治家と違う面を多く持っており、政治環境が彼のように分かりやすい発言を求めているからでもあります。

因みにトランプは全米屈指の名門校であるペンシルベニア大学ワートンスクールの出で、厳格な禁酒主義者であることも日本では余り知られていない側面でしょう。

今月号は記事が少なく心配しましたが、助けを求めた所、たちどころにお方からすばらしい原稿をいただきました。後藤さんの「生涯最後の...」は私自身1月の免許の書き換えを控え人ごととは思いませんでした、この季節、雨の日や夜間は特に安全運転に徹しましょう。上野さんにいただいた「トランプ旋風...」は来年の大統領選を控え大いに気になる話題ですね、今回のロスでの事件などが影響してアメリカがその良識を失い、昔に逆戻りする様な事が有っては大変です。これからも大統領選の行方に関心を持って見ていきましょう。どうぞ皆さんも日頃思っている事、考えている事などをお気軽にお寄せください。 古田